



『自立』と『自律』を支える。
当たりまえの生活を取り戻す



脳卒中患者は超急性期医療を受け生命危機を脱しても、意識、運動、嚥下、言語、排尿、高次脳機能障害などのさまざまな障害を伴います。

そのため、『人の五感すべてを刺激し意識レベルを上げる』『新たな障害のありのままを受け止め、セルフケア能力を高める』『家族、患者の価値観や信念を尊重し生活の再構築を行う』をモットーに脳卒中看護を実践していきたいと思ひます。



患者に寄り添い、
患者の『自立』を支援する。



患者さまがよりその人らしい生活を送れるよう患者さまの自立を支援します。そのために急性期から廃用症候群を予防し、将来自力で移動できるように関節可動域を保ち筋力をつける、食事を口からたべるように頸部のポジショニングを整えておくなど、セルフケア能力の向上、生活の再構築を意識した目的志向型のケアを実施しています。